

第5回学校再編計画策定委員会記録

- 1 日 時 令和2年7月7日(火)午後1時30分～午後4時10分
- 2 場 所 牧之原市役所相良庁舎3階会議室
- 3 参加者 委員10人全員出席
島田桂吾、横田恭子、櫻井真弓、小柳津敏法、石神綾子、服部真和、
種茂和男、赤堀康彦、増田ひとみ、良知恵里香(順不同・敬称略)

4 概 要

学校数について2グループに分かれてグループ討議を行い、委員会全体での確認をした。本案件については、次回引き続き協議を行う。

【協議1 学校数について】

- ・ 両グループとも、新しい学校は旧相良町・旧榛原町に1校ずつの計2校がよいという意見であった。理由は、人数的に教育がしやすく、地域の特色も活かしやすい。通学もしやすいこと。
- ・ ただし、1つのグループからは、建替えせず現在の牧之原小中学校を3校としてしばらくは残したいという意見があり、理由としては、高台開発がされ人口が増える可能性があるため、今後10年間の動向を見て、建替えしていくのか、2校のどちらかに統合していくのかを考えたいということだった。
- ・ しかしもう1つのグループは、高台開発をして人口が増えるかどうかは未知数であり、小規模のまま残すことに不安であることから最初から2校を目指すべきではないかという意見だった。
- ・ 1校については、児童生徒数が多くなりすぎてしまい子どもへのメリットが見えないこと、PTAなどの組織運営も難しくなる。
さらに1校では、遠距離になる児童生徒が多くなり、子どもたちも大変になる上、スクールバス等の台数も多くなり経費も膨大になる。
地域とのつながりが薄くなる心配もある。という意見であった。

【協議2 2校以上になった場合、学校の統一性や特徴をどうするか。また、9年間のつながりある教育を実現するために学校組合についてもどのような形となるのがよいか。】

- ・ 学校の芯・核となるところは共通としたうえで、それぞれの学校のよさや魅力をつくっていく。
- ・ 学校再編する上で核となるもの、小中一貫校のよさを勉強して積み上げていく必要がある。

- ・ 今までの各校のものが集約されるというよりも、これまで地域との連携のよさを引き継ぎつつ、新しくつくっていくということが必要ではないか。
- ・ 学校組合の子どもも新しい学校へ入るようには、新しい学校のメリットが分かるようにしていくということが必要。

地頭方地区は、小学校6年間は牧之原市立、中学校3年間は学校組合となっていて、行政区や教育の区割り等いろいろな境界があり、一貫性に欠ける面がある。新しい学校区に行くことにより、市が9年間の学びを保障するとともに、その先の小中一貫教育のよさをアピールしていく必要がある。

- ・ 牧之原小中学校は、どちらかの学校にくるとしたらどう分かれることが望ましいかは地域の人に聞きたい。
- ・ もっと保護者や地域と議論する機会が必要。まだ市民には知らない人が多いので、意見を吸い上げていきたい。